

響 -ひびき-

2019年冬季 アニソン試聴会
真空管のスイッチャ作

どうも、管球アンプのスイッチャです。
さて！今回のスピーカーですが、極薄後面開放スピーカー、響 -ひびき-です。

ユニットは、秋葉のトランス屋のおっちゃんから格安で2ペア買った謎ユニット。紙コーン紙エッジの超廉価モデル。昔のラジカセのユニットの主流だったとか。(某スピーカー屋談)



新居で極薄平面バッフルにて使ったところ、案外響きがよく、そこそこ低音も出る。せっかくなので箱っぽくしてやろうと思い、作製しました。



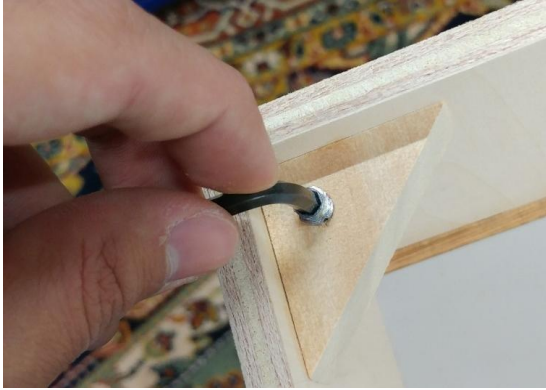
正面バッフルは平面バッフルを踏襲して4mm。枠は9mm厚です。バッフルサイズは450×600mm。本来、この半分を想定していましたが、ホームセンターで実際に叩いてみたところ、意外と高い音で響いてしまったため、このサイズに。カットサイズを間違えたおかげで期せずして足が付きました(笑)

木枠は9mmともなると簡単に歪んでしまって、まともに圧着できないためボンド+釘止め。

木枠と正面バッフルの固定は木製の積み木を使用しました。鬼目ナットを仕込んで、後々正面バッフルを付け替えられるように工夫してあります。

ユニット取り付け位置はやはり叩いて一番響きの良いところに。





スピーカーとバッフル、バッフルと木枠、はネジ止めですが、スポンジを介してかなり緩くしてあります。張力を強くかけすぎず、できる限り低いところで共振させたかったからです。
このユニットネジ強く締めるとビビるし(笑)

スピーカーターミナルと内部？配線は家に転がっていたものを。取り付ける板はスピーカー取り付け穴を抜いた際の端材を流用しました。

工夫ポイントというか、修正ポイントとしては、木枠とバッフルがネジ以外で触れるとビビりが出るため、金ヤスリでただひたすらに削りました。とはいえ4mm、非常に削りやすかったです。

音質は良好ですが、荒い音源、広帯域な音源は苦手です。板が共振して、振動板の延長として働いているような感じもします。また、バッフルが薄すぎて倒しておくとユニットの自重でバッフルが歪みます(笑) 木枠も何かしらの重さをかけると歪むので、かなり脆いです。

塗装は直感で水性ニスウォルナットの似回塗り。バッフルはかなり音が変わりそうだったので今回は塗装なし。なんとか完成してよかった。

アニソン試聴会では前に雑誌の企画で作った自作スピーカーケーブルを使用させていただこうと思います。それではお楽しみに！



あとがき

正直 208sol を広帯域にして使おうとするも、じゃじゃ馬っぷりに辟易して来ていたときに会ったユニット。簡易でラフな設計で、勢いで作ってしまいました(笑)
辟易舌先に更に広帯域なものを買ってしまったのですが、それはまた別なお話。